武田 和代（総合研究大学院大学・文化科学研究科・比較文化学専攻）

フェア・トレードのコーヒー豆栽培に携わる先住民農民の文化人類学的研究
―メキシコ・オアハカ地域における小規模生産者組合『クコス』の事例から

---

1. はじめに

2. 調査研究の目的

- メキシコの歴史的、政治社会的、文化的脈略から、コーヒー産業の現状とフェア・トレード運動発展の背景を考察する。
- 1980年代末以降の「コーヒー危機」に対し、生産者の取った生計戦略の変化を考察する。
- 生産者レベルにおけるフェア・トレードを巡る多様なアクターの存在とそれぞれのフェア・トレードに対する理解・実践について考察する。

3. 先行研究と問題の所在

- フェア・トレード研究
- メキシコのコーヒー豆生産者に関する研究

4. 調査研究の方法

2008年4月から2009年3月までメキシコ政府奨学生として、メキシコ・オアハカ州の社会人類学高等調査研究所(CIESAS、シエサス)に在籍

①文献調査　②生産者団体「CEPCO(セプコ)」「CUCOS(クコス)」の調査　③村の生産者への調査

5. 世界のコーヒー産業

- 世界の生産国　大国ブラジル、コロンビア、インドネシア、新興国ベトナム
- 世界の消費国　アメリカ合衆国、ドイツ、イタリア、日本
- 焙煎大企業の貿易独占、複雑な供給網、不安定な国際市場価格、低い生産者への支払い価格
- 「コーヒー危機」　国際コーヒー協定の不合意(1989年)を契機とする国際価格の大暴落

6. メキシコのコーヒー産業

- 1980年代以降、生産量の低下　ex. 1988年には世界で第４位のコーヒー豆輸出国(世界貿易量の6.7%)⇒2007年には第11位(同3.6%)
- 生産者の二極化　71%が2ha以下所有の小規模生産者、生産者の0.4%を占める50ha以上所有の大規模農園主が国内生産高の27パーセント占有(1988年)
- 家族経営による手作業が主で、集約栽培や機械型農業の導入の遅れ、低品質、低い生産性
- 高いフェア・トレード・コーヒーの取引割合
- 有機栽培コーヒー豆に限ると世界市場の約20%占有

7. メキシコのコーヒー産業の略史

- 19世紀に植民地勢力によりコーヒー栽培の導入
- 20世紀には外貨獲得を目的に国策としてコーヒー栽培を奨励
- 20世紀半ばに国のコーヒー機関インメカフェを設立、資金提供や技術支援、さらに各地で生産者団体を組織し、集荷と輸出を担う。
- 石油価格暴落と債務膨張により1980年代にメキシコ経済が悪化
- 政府の経済自由主義政策の導入により農業分野への援助撤廃、インメカフェの解体
- 「コーヒー危機」に直面した生産者の土地放棄
- 工業分野やサービス分野への産業人口の増加
- アメリカ合衆国への違法出稼ぎ
- 生産者自らの組織化　ex.オアハカ州のUCIRI(ウシリ)、CEPCO(セプコ)
- 欧米向けフェア・トレードや有機栽培市場の新規開拓

8. オアハカ州の概要

- 高い先住民族人口の割合、貧困度を示す「周縁指数」の高さ
- 主な生業はトウモロコシやカカオ、コーヒーなどの栽培で、6人に1人がコーヒー産業に従事
- コーヒー豆生産地は山間部で、交通不便でインフラ未整備

9. オアハカ・コーヒー生産者州連合体「Coordinadora Estatal de Productores de Café de Oaxaca, A.C. (CEPCO セプコ)」の概要

- インメカフェ解体後、小規模生産者支援を目的に1989年設立、州内33生産者団体加盟(2009年)
- 集荷と第二次精選(脱穀と選別)、欧米のフェア・トレードや有機栽培市場へ輸出

10. 沿岸部地域コーヒー生産者団体「Cafetaleros Unidos de la Costa (CUCOS クコス)) の概要

- 沿岸部地域18ケ村の1175人の生産者が参加、多様な会員
- 1995年の設立後、内紛やハリケーン被害などで活動停止し、2005年ごろに本格的に活動再開し、2005年にセプコに加盟
- 会員からのコーヒー豆の集荷とセプコへの出荷(約75%)、地元消費の奨励、コーヒー苗の育成
- 有機栽培認定(フェア・トレード認定はセプコ)、社会的プレミアムで倉庫や薬局建設

11. 生産者の村・サン・ラファエル・トルテペック村の概要

- 人口516人109家族(2005年)、標高350m、コーヒー栽培が主な生業
- コーヒー豆の摘み取りと精選、販売、家庭での消費
- 有機栽培と自然栽培
- 生産者団体に対する信頼、フェア・トレードへの参加意識

12. まとめと今後の課題